

水-6



1200701569141

寰瀾水路誌

第一卷上追補 第四

明治24年5月改正

国立国会図書館

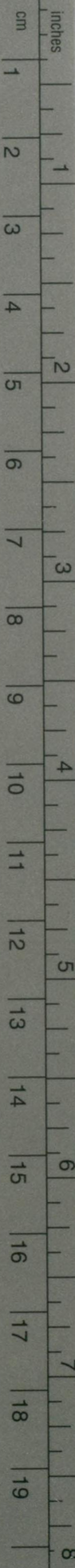
通補第四

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



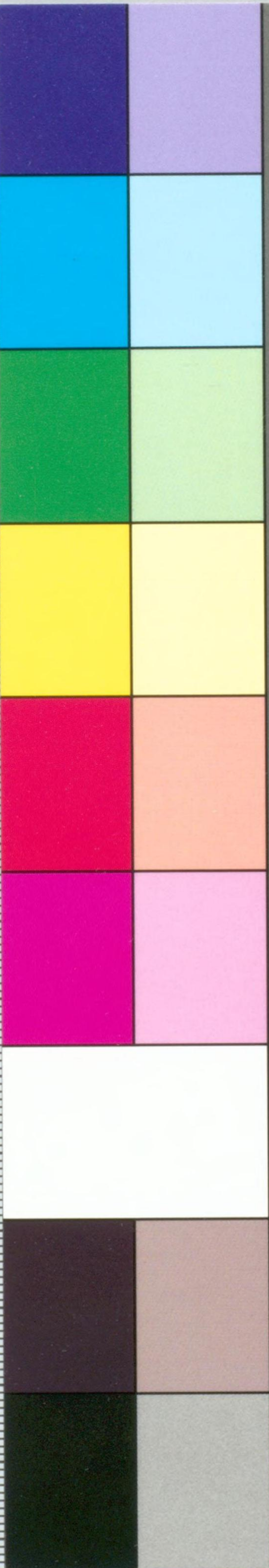
© Kodak, 2007 TM: Kodak

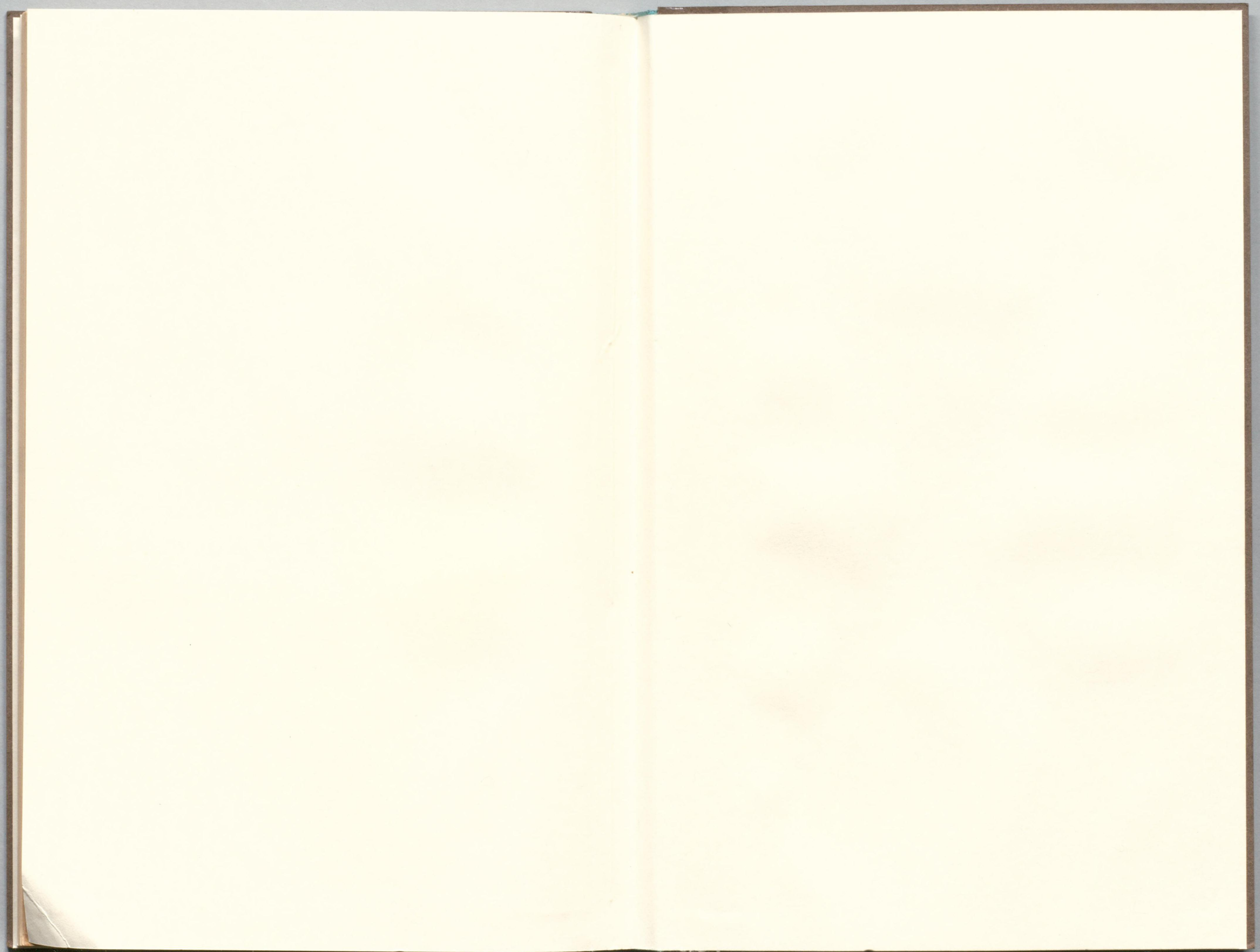


Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black





七卜F-22



明治二十四年五月改正

寰瀛水路誌第一卷上追補

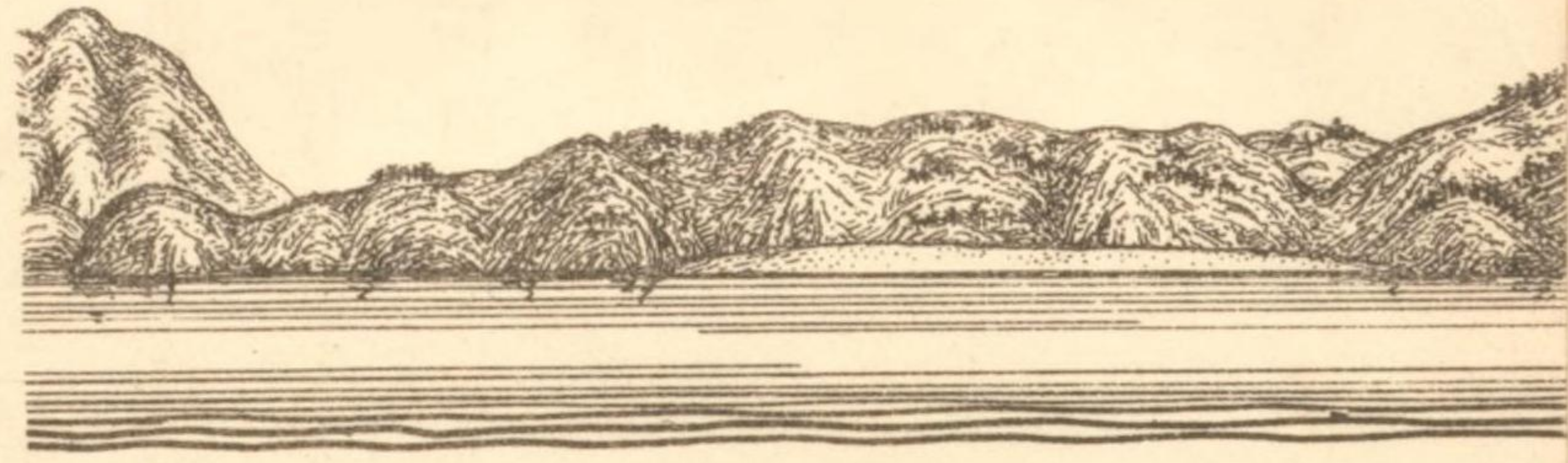
第四

長門海峽

水路部

2/F-22

山上戸



山頭笠

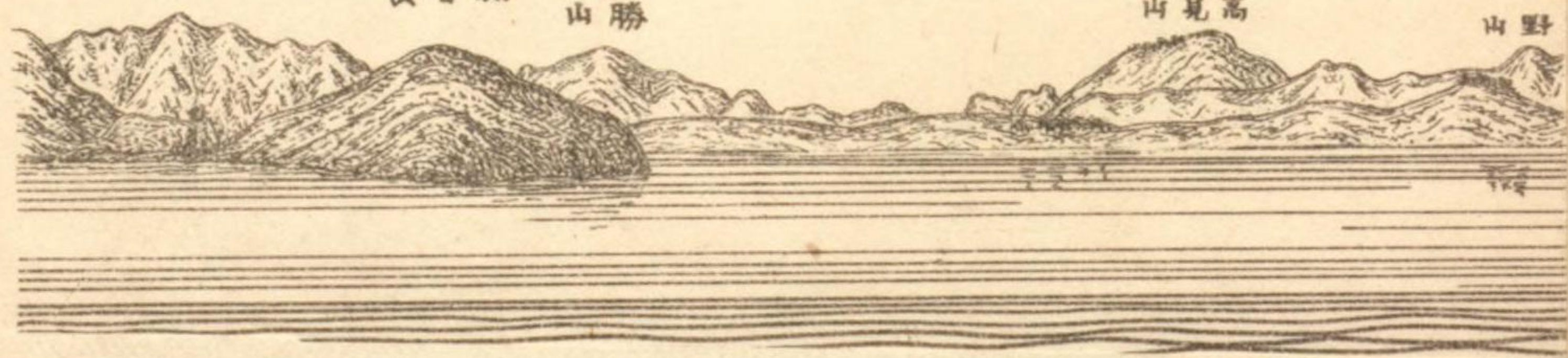
山城古



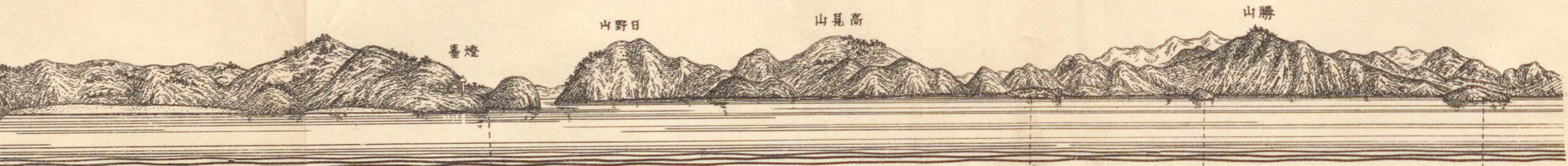
辰合紅 山勝

山見高

山野

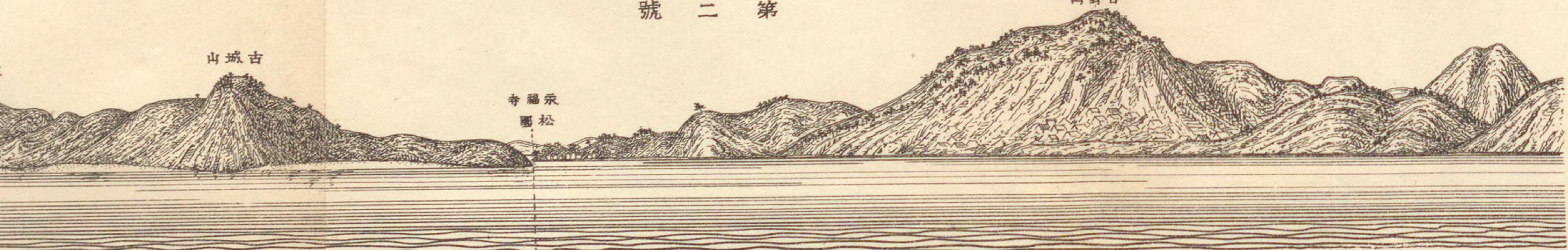


號 一 第



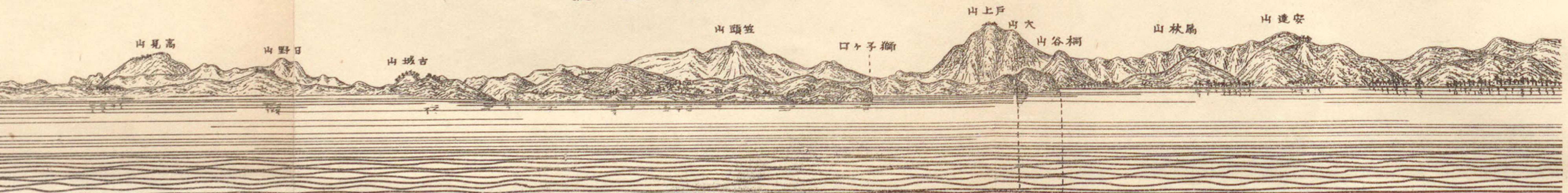
埼部
W. N. & W. 1 Sea Mile

號 二 第



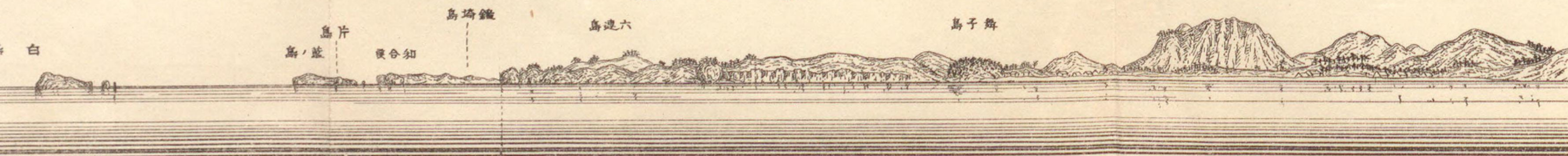
埼司門
W. S. W. & W. 1 1/2 Sea Miles

號 三 第



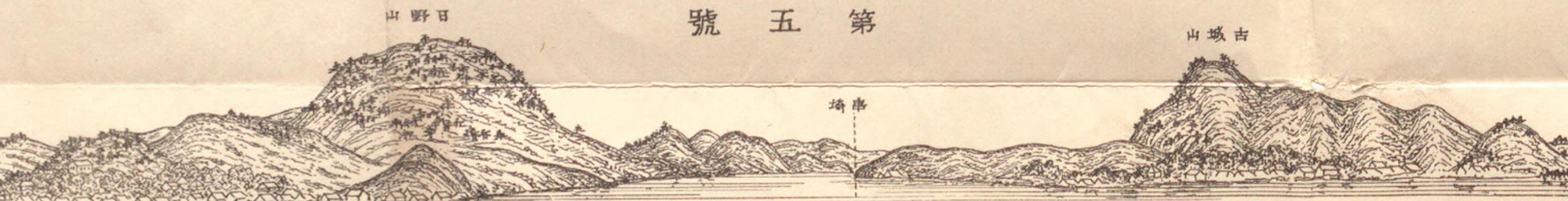
臺燈浦福
S. E. & S. 3/4 Sea Miles

號 四 第



口ヶ子獅子
N. N. W. & W. 1 1/2 Sea Miles

號 五 第



EF-22

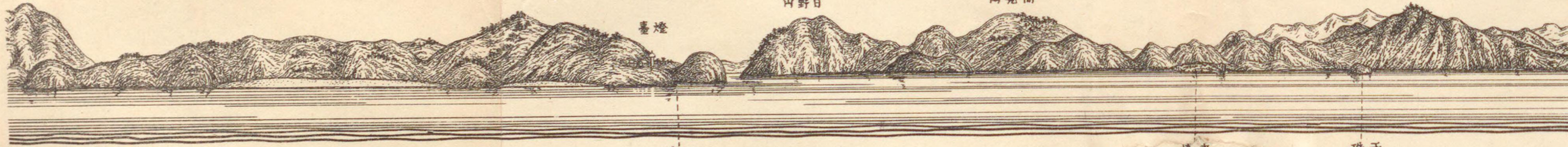
第一號

山上戶

山野日

山見高

山勝



臺燈

埼部

W. N. 1/2 W. 1 Sea Mile

埼串

珠子

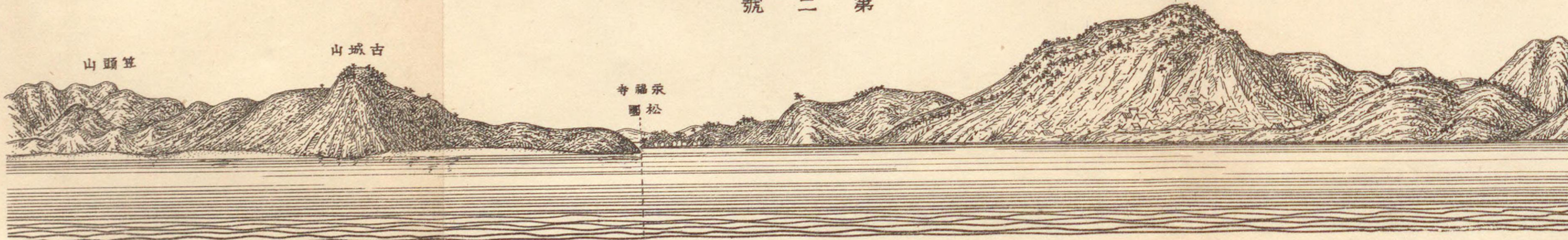
第二號

山頭笠

山城古

寺福永
園松

山野日



埼司門

W. S. W. 1/2 W. 1 1/2 Sea Miles

第三號

辰合紐

山勝

山見高

山野日

山城古

山頭笠

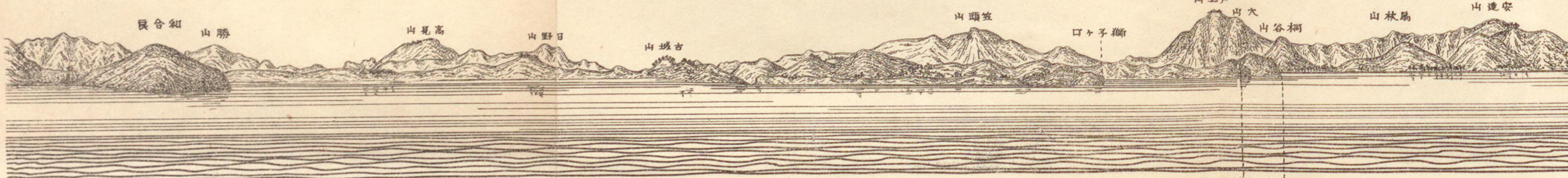
口ヶ子獅子

山上戶

山火
山谷桐

山林扇

山連安



臺燈浦福

瑞西市島彦
S. E. 1/4 S. 3/4 Sea Miles

第四號

島白

島片
島笠

辰合紐

島崎鏡

島連六

島子舞



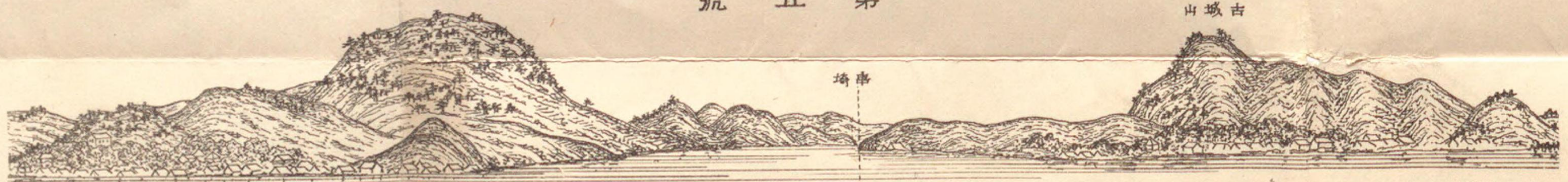
口ヶ子獅子

N. N. W. 1/2 W. 1 1/2 Sea Miles

第五號

山野日

山城古



埼串



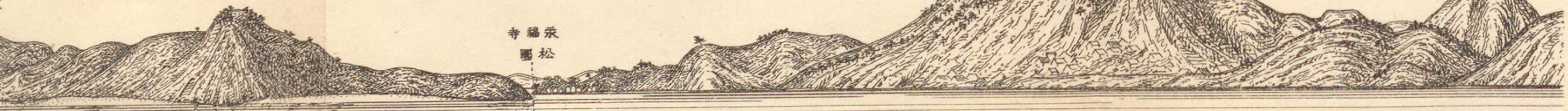
壘部
W. N. & W. 1 Sea Mile

壘串 珠子 珠滿

號二第

山野日

山城古



寺福永
團松

壘司門
W. S. W. & W. 1 1/2 Sea Miles

號三第

山上戶 山犬 山谷桐 山林扇 山連安

山見高

山野日

山城古

山頭笠

口々子獅

山谷桐

山林扇

山連安



壘燈蒲羅 端西南島彦
S. E. & S. 3/4 Sea Miles

號四第

島片 便合知

島崎鐘

島連六

島子舞



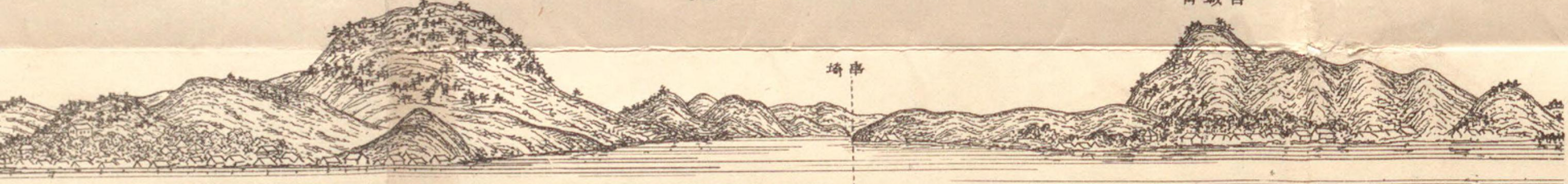
口々子獅
N. N. W. & W. 1 1/2 Sea Miles

號五第

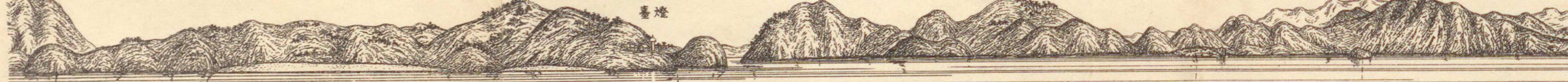
山野日

山城古

壘串

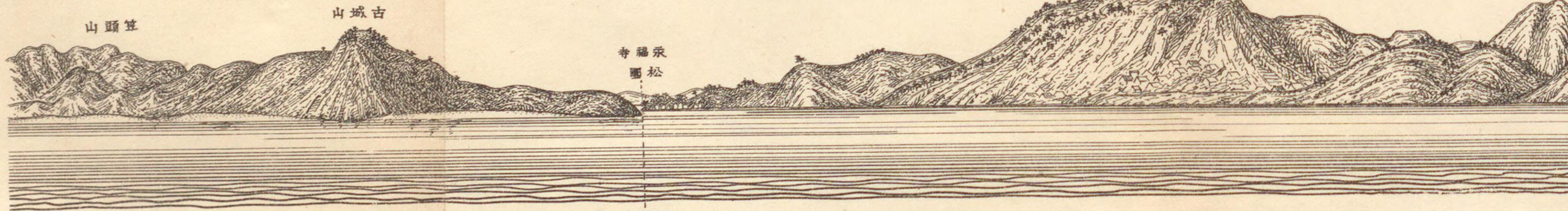


壘司門
N. E. & E. 1/2 Sea Miles



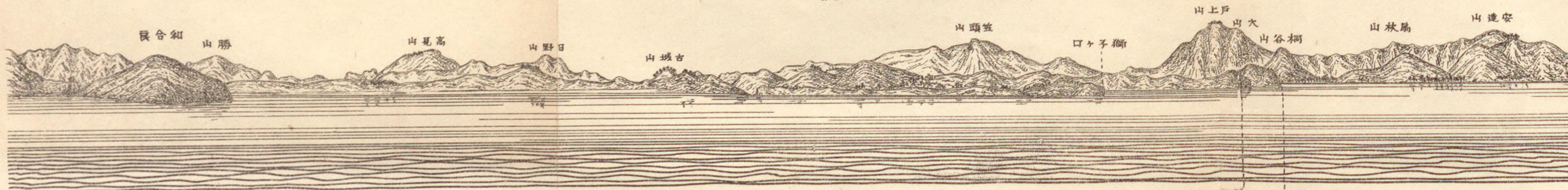
W. N. & W. 1 Sea Mile

號二第



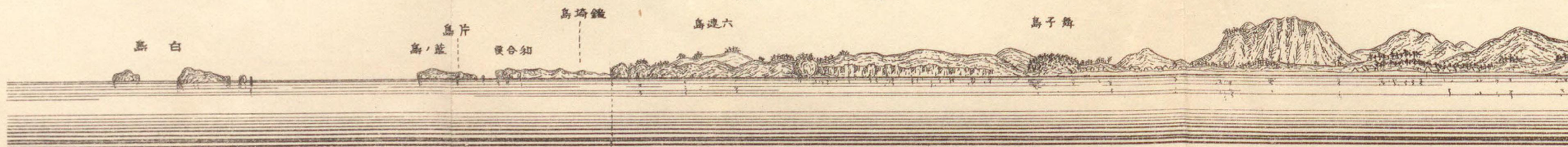
W. S. W. & W. 1 1/2 Sea Miles

號三第



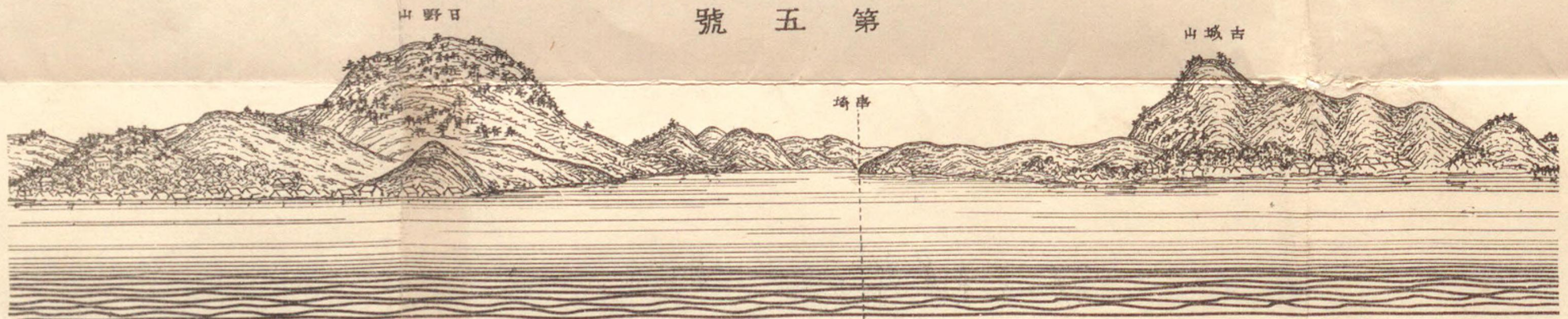
S. E. & S. 3/4 Sea Miles

號四第



N. N. W. & W. 1/2 Sea Miles

號五第



N. E. & E. 1/2 Sea Miles

寰瀛水路誌第一卷上追補 第四

本編ハ明治廿一年三月水路襍誌第百三十三號ニ載セタル水路追補發行後今日迄ニ得タル新記事ニ據リ改正刊行スル所ニ依テ水路襍誌第百三十三號ハ之ヲ廢棄シ本編ヲ挿入代用スベシ

明治二十四年五月改正

水路部

長門海峽

一名下之關海峽 或ハ赤間關海峽

本洲ノ南西端ナル長門ノ陸岸ニ連リタル彦島ノ一島ヲ以テ九州ノ北隅ナル豊前ノ北西岸ニ相對シ成セル所ノ海峽ニシテ其本洲ト九州ト相對迫スルノ最モ狹キ處ヲ早鞆瀬戸古名ト曰ヒ彦島ノ南東岸ト九州ト相對迫スル處ヲ大瀬戸ト曰ヒ而シテ彦島ノ北岸ト本洲ノ陸岸ト對迫スル處ヲ小瀬戸ト曰フ即チ日本内海ノ西口ニシテ海路管鑰ノ一要區タリ該峽ノ全長ハ約七里ニシテ其航通シ得ヘキ水道ノ部分ハ濶サ三鏈ヨリ七鏈ニ至リ兩口共ニ數個ノ淺堆岩礁ニ由テ阻礙セラル即チ其西口ニハ彦島ノ岸ニ沿ヒ或ハ離レ或ハ接シ塵寄大礫根ノ兩堆及俎、鳴瀬、與次兵衛ノ三岩礁アリ東口ニハ中洲、飛ヶ洲、蠣、辻ノ三

堆及金伏、細瀬、釜床等ノ岩礁アリ而シテ東口ハ長門ノ串埼ヲ以テ北角トナシ
豊前ノ部埼ヲ以テ南角トナシ其間二里ニ餘リ漸次ニ早鞆瀬戸ニ狹ハマルモ
ノナルガ中、洲、嶋、辻ノ爲メニ三水道ニ分岐セラル

串埼

本山埼ノ北西ノ西九里ニ當リ東ノ南ニ向フ所ノ平低ナル頭角ニシテ即チ長
門海峡東口ノ北角ヲナセリ低潮ニハ其東面ニ岩石ノ露出スルモノアリテ擴
延一鏈ノ磐礁ヲ現ハス其附近ノ水深ハ三尋界南面二鏈ヨリ東南東面三鏈ニ
出ツレトモ其南東面ハ該界ヨリ俄然六尋トナリ南面モ亦同シク一鏈ヲ距ラ
スシテ五尋半トナル又此角北面ノ海岸ハ平低ニシテ略直ナル沙濱ヲナシ北
東ノ北ヘ二里餘ニ互リ而シテ角ニ近ク其長サ里餘ニ互ルノ大邑アリ是則チ長
門國ノ一名邑タル豊浦(舊長府)ニシテ人口約六千、下之關ヲ距ル陸里僅ニ二里
ニ滿タス然ルニ其商肆工場等ハ頗ル寂寥ヲ極ムルカ如シ此沙濱一帶ノ前面
ハ低潮ニ際シ斥地ヲナス、高潮ノ水際ヨリ四鏈ノ遠キニ及ビ串埼ヲ距ル北

ノ東ニ東約一里ノ處ニ兩頭一座ノ半潮岩アリテ能ク其區界ヲ示ス

此埼ト本山埼トノ間ハ海岸環繞シテ廣濶ナル一大灣ヲナセモ一般ニ水淺ク
且北西隅ニ吉田川、北東隅ニ厚狹川、有帆川、都合三大河流アリテ沙土ヲ流出シ
其河口前面ノ汀邊ヲ填延スル、最モ甚シキカ故ニ沿岸總テ低潮ニ斥地ヲ露
ハサ、ナルノ處ナク其最モ廣キ處ハ吉田川口ノ前面ニシテ露出ノ至端ハ該河
口ヲ距ル、二里ニ至ル又串埼ノ東、本山埼ノ北西ニ當ル海岸ノ前面ハ灣中海
水ノ稍深キ處即チ三尋界線ノ圍繞セル地ニシテ東西三里、南北一里其最深底
ハ四尋ナリ

滿珠島及干珠島

串埼ノ東面ニ當リ東西ニ相駢フ所ノ兩島ナリ乃チ滿珠島ハ串埼ノ東ニ北一
里半ニアリ其周回半里高サ百八十八呎東西ニ稍長キ島ニテ西角ヨリ南岸及東
角ヲ經テ北岸ノ中央迄ヲ岩岸トシ北岸ノ中央ヨリ西角迄ヲ沙濱トシ干珠島
ハ滿珠島ノ西ニ南約七鏈ニアリ其周回二鏈餘高サ八十六呎南角及北東岸ニ出

四
没ノ岩石アリテ四周幾ト岩岸ニ屬スルノ島ニテ其北西角ニ一ノ沙嘴ヲ形チ造リ低潮ノ時ニ其嘴尙ホ一鏈干出ス而シテ干珠島ノ南面ニハ其南角ヲ南ニ距ル一鏈ニ圓頂ノ孤岩アリテ西面稍顯著ナリ又該孤岩ノ北東面ニハ其距離甚近ク一小岩アリテ大低潮ニノミ僅ニ干出ス
此兩島ハ俱ニ樹木全面ヲ蔽ヒ鬱黒トシテ頗ル顯著ナルカ故ニ長門海峽ノ東口ニ入ル航路ヲ識別スルニハ最好ノ準標タリ且此兩島ハ俱ニ其南側距離二鏈ニ近航スルヲ得ヘシ

部埼

九州北角ノ東端ナル高角ニシテ長門ノ串埼ト南北ニ相對シ長門海峽東口ノ南角ヲ形チ造ルモノナリ而シテ此埼ハ相距ル二鏈ヲ以テ航過スルヲ得ヘシ

部埼燈臺

部埼ノ北東端ニアリ其等級及燈質ハ第三等ノ不動燈ニシテ海方ヨリ望ムルハ東イ南ヨリ南及西ヲ經テ北西^{三/四}西ニ至ルマテハ紅色其北西^{三/四}西ヨリ北^{一/三}

東ニ至ル迄ハ白色ヲ顯ス其燈光ノ紅白接合ノ處ヲ北西^{三/四}西ニ望ミテ進メハ彼ノ本山浮標ヲ浮置シテ戒メタル宇部御埼ノ遠出淺灘ヲ避ケ得ベシ
其燈高ハ基礎上二十一呎海面上百二十二呎ニシテ其晴天光達十七里

飛洲

部埼ノ北西約九鏈ノ處ニアリ北西ヨリ南東ノ向キニ狹長延伸シテ其長約二鏈洲上ノ水深ハ大低潮ニテ二尋半乃至三尋其南東端ヲ最淺處トス其四周ハ四尋乃至五尋半ノ水深ナリ

此洲ノ南西約二鏈ノ處ニ一沙洲アリ土俗是ヲ洲鼻ト呼フ其廣約一鏈東西ニ稍長ク洲上ノ水深ハ大低潮ニテ二^{三/四}尋ナリ

飛洲浮標

飛洲ノ北端ヲ示明スルカ爲メニ碇置スルモノナリ其大低潮水深五尋ニシテ部埼燈臺ヲ南東^{一/二}南滿珠島東端ヲ北東^{一/二}北串埼ヲ北々西ニ望ム處ニ在リ其標質形狀ハ鐵造圓錐形ニシテ紅黒ノ縱線ニ塗り頂キニ紅色ノ籠球ヲ冠シ水

面上高サ十呎ナリ

中洲

串崎ト部崎ノ中間ニアル二座ノ淺沙堆ニシテ長門海峽東口ノ航道ヲ兩分シ其全徑東西一^三/_四里其幅半鏈乃至三鏈ニシテ堆上水深ハ一^三/_四尋乃至三尋トス而シテ其最東端ハ部崎燈臺ヨリ北々東二里一鏈ニアリ又該堆ハ東西二座ニ分ル、ヲ以テ即チ東西二個ノ浮標ヲ置キテ其各南側ヲ示明セリ

中洲東浮標

中洲東堆ノ南邊水深三尋ノ處ニ浮置セル黑色鐵造ノ圓錐形浮標ニシテ頂上ニ籠ヲ戴キ其高サ水面上十呎ナリ此浮標ヨリ滿珠島ハ北十二度五十五分東、門司崎ハ南七十七度五十五分西、部崎燈臺ハ南五度五十五分西ニ當ル

中洲西浮標

中洲東浮標ノ西方該洲西堆ノ南邊水深三尋ノ處ニ浮置セル紅色鐵造ノ圓錐形浮標ニシテ頂上ニ籠ヲ戴キ其高サ水面上十呎ナリ此浮標ヨリ串崎ハ北二十

六度五分西、滿珠島ノ頂ハ北四十六度二十五分東、部崎ハ南三十四度三十五分東、金伏冠燈立標ハ南八十四度二十五分西ニ當ル

蠣辻

中洲ノ西南西面ニアル一淺堆ニシテ其最西端ハ門司崎ヨリ東^三/_四北相距ル五鏈水深四尋ノ處トス而シテ此堆ハ此處ヨリ東方約一里ニ擴延シ其水深二尋乃至四尋トス蓋シ此堆ハ長門海峽東口ノ中洲南方ノ部分ヲ中、南、兩水道ニ分割スルモノナルガ其便利ニ於テハ北水道ヲ第一トシ中央水道ヲ其次トシ南水道又之ニ次ク

錨地

蠣辻ノ北側ニ當ル水深五尋ノ處水深七尋ヨリ俄ニ四尋ニ減スル地ハ能ク此海峽ヲ全通スル激潮流ヲ避クルヲ以テ潮待ノ錨地トシテ用ユルニ適當ス

金伏岩及カマガ瀬

門司崎(後ニ出ツ)ヲ距ル北東^三/_四東^一/_五里ノ處ニアル三顆ノ險岩ニシテ北

イ西至南イ東ノ長約六十間南ニ在ルヲ南角ト曰ヒ其上ニ冠燈立標ヲ設ク此立標ノ北方^{一〇}鏈ニアルヲ中瀬ト曰ヒ^{一三}鏈ニアルヲ北角ト曰フ北角ハ水深三尋ニシテ其以北ハ十一尋更ニ險岩ナシ又該立標ヲ距ル南方^{一三}鏈ノ處ニ一險岩アリ土俗カマガ瀬ト曰フ大低潮ノ時水深二尋半トス金伏岩及カマガ瀬至近ノ水深ハ五尋以上ナリ

金伏冠燈立標

金伏岩上(即チ南ノ角)大低潮時ノ水深五呎ノ處ニ設置ス立標ハコンクリート造圓形ニシテ黑白ノ横線ニ塗ル冠燈ハ不動白色ニシテ全度ヲ照輝シ大高潮面上高^サ二十七呎晴天光達三里此標ヨリ方位ヲ取ル左ノ如シ

門司崎 南六十三度三十八分西

部崎 南六十三度五十五分東

串崎 北三十六度四十五分東

該照光器ハ一度點火スル時ハ數日保持シ得ベキ構造ニ係ルヲ以テ別ニ看守

ヲ置カス故ニ万一消滅スルキハ再ビ點火スルマテ多少ノ時間ヲ費ス^トアルベシ

細瀬 又細井瀬

細瀬ハ南北二顆ニ分ル其南ニ在ルモノハ南細瀬ト稱シ金伏冠燈立標ヲ距ル南西^一南^一ノ鏈ニアリ大低潮ノ時水深三^一尋

此礁ト該立標ノ間ハ岩礁アルヲ以テ通過スベカラズ

釜床瀬 又ドウセウ瀬

釜床瀬ハ金伏冠燈立標ヲ距ル南イ西^{一四}西^二ノ鏈ニアリ大低潮水深三^一尋其南東十七間ノ處ハ水深五^一尋

注意

細瀬ト釜床瀬トハ正ニ航路ノ左右ニ當リ其間僅ニ一^{一五}鏈ニ過ギザルヲ以テ此間ヲ通航スル船舶ハ非常ノ注意ヲ取ラザル可カラズ而シテ其避險標ハ門司崎ヲ永福寺ノ松團ト一線ニ保視スルヲ以テ最好トス

野山瀨

金伏冠燈立標ヨリ西^一南^二南三鏈ニアリ大低潮水深三^三/_四尋
ハゲ瀨

金伏冠燈立標ヨリ南西^一西^二西四鏈ニアリ大低潮水深四尋航路ノ北側遠カ
ラザル處ニアリ

北水道

中洲ノ北ニ通スル水道ニシテ深水ヲ連テ金伏岩ヲ除クノ外ハ更ニ隱險ナシ

中央水道

中洲ノ南、蠣^レ辻ノ北ニ通スル水道ニシテ大低潮ニハ其最淺部ノ水深四尋ナリ
凡^レ此水道ニ由テ行クモノハ日野山ヲ西^一北ニ保視シ永福寺ノ松團^{市街ノ}
殆ト中央ニ當テ南出セル地角ノ頂ニアリト門司埼ト一直線ヲナスニ至ルマデ進ムベシ蓋シ此水
道ニハ浮標アリテ能ク其水路ヲ示明スルヲ以テ其水深カラザルモ吃水二十
二呎以下ノ船舶ナレハ潮時ニ掛念ナク常ニ之ヲ通過スルヲ得可シ又吃水二

十二呎以上ノ船舶ト雖モ高潮ノ時ナレハ之ヲ航過スル^レ決シテ難カラヌ又
此水道ノ最淺部ハ即チ中洲西浮標ノ南方ニシテ其濶^サ大約三鏈ナリ

南水道

蠣^レ辻ノ南方ニ通スルモノニテ其幅甚狹キ水道ナリ故ニ縦ヒ北水道及中央水
道ノ如ク潮流ハ強盛ナラザルモ此水道ヲ通航スルハ航者ニ於テ安全ノ策ニ
アラス但シ該水道ハ低潮ノ時ニ於テ水深五尋半ニ下ラス

門司埼

九州ノ北端ナル一高角ノ端ニシテ赤間關市街ノ東端ニ相對シ其濶^サ僅ニ三鏈
半即チ早鞆瀨戸ノ一側ナリ此角端ハ一ノ低山ナレ^レ纔ニ之ヲ隔ツレバ其高^サ
五百六十六呎頂ニ二三ノ高樹ヲ有セル古城山ノ突起スルアリ
海峽中門司埼ト其對岸トノ間ハ潮力猛激ノ處ナリト雖モ漲落兩流交迭ノ時
ニ當テハ其潮流ニ稍^ク間隙アリ

電信索

門司崎ノ東面ヨリ其對岸ニ沈架シタル海底電信索アリ其索ノ所在ハ對岸ノ兩濱ニ小屋及立標ヲ設ケ又紅黑縱線ニ塗飾シタル浮標ヲ該濱ノ近傍ニ繫置シテ之ヲ示明ス

日野山

此山ハ三巔ヲ有スル一峯ニシテ其最高巔ハ海面上約九百十五呎上ニ砲臺アリ是レ門司崎ノ對面ナル本洲陸岸ニ於テ顯著ナルモノナリ

門司浦

門司崎ノ南側ニアル泊船處ニシテ門司崎ヲ該浦ノ北角門司崎ト殆ト南北ト背馳セル一角一直線ニナスカ或ハ少シク開視シテ直北ニ望ミ而シテ門司ノ村落ヲ東ニ望ムノ處ヲ最モ好キ錨泊ノ位地トス其水深ハ五尋以上七尋以下ナリ定期郵船ノ赤間關ニ寄航スルモノハ此地ニ投錨スルヲ常トス

此浦ノ沖ニ當リ廣濶ナル一淺堆アリ門司洲ト名ツク其堆上水深二四尋以上四尋以下ニシテ即チ此浦ノ南部並ニ外部ヲ全ク填塞セルモノナリ而シテ此

堆ト濱トノ間ハ其深サ六尋トス又該堆ノ最淺部ハ深サ二四尋ニシテ門司浦ノ北角ヲ距ル南西三四西五鏈半ニアリ凡ソ西口ヨリ來テ此堆ヲ避ントスルニハ宜シク門司崎ト串崎トヲ一直線トナシ北東四東ニ視テ進ムヘシ即チ該堆ヲ適宜ノ距離ニ避ケテ其北西面ヲ航通シ得ヘシ

洋紀千八百六十四年ノ秋英國同盟艦隊ノ大軍艦數隻赤間關ニ來リ諸砲臺ニ向ヒ交戦ノ後該泊地ニ錨泊セシガ當時該海峽ノ潮流西流スル間内濱ニ錨泊セシモノハ勿論其他ノ諸艦モ亦激流ノ旋流ニ能ク敵受スルヲ得タリ又東流スル間ハ全ク其勢威ノ外ニ之ヲ避ケ得タリト此記ハ英艦ユールヤルス號乘員海軍測量長ジヨウーヰ、ウイリヤムノ實記ニ據ル

門司浮標

門司洲ノ北東端ニ紅色浮標ヲ置キ南西端ニ黑色浮標ヲ置ク俱ニ鐵造圓錐形ニシテ頂ニ球籠ヲ戴キ水面上高サ十呎ナリ

北東端紅色浮標ハ大低潮水深四尋ノ處ニ浮置ス是ヨリ方位ヲ取ル左ノ如シ

與次兵衛冠燈立標

南三十五度四十五分西

永福寺

南八十九度四十分西

門司埕

北三十一度四十分東

南西端黑色浮標ハ大低潮水深四尋ノ處ニ浮置ス是ヨリ方位ヲ取ル左ノ如シ

與次兵衛冠燈立標

南三十度西

永福寺

北四十度二十分西

門司埕

北四十二度四十分東

赤間關

海峽北岸ノ中部ニ位スル大市邑ニシテ又内海口ニ當ルヨリシテ一大要津トナル出入諸船織ルガ如ク凧笛帆影常ニ絶ユル時ナシ郵船會社ノ定期船ハ一週間毎ニ此ニ寄泊ス其人口約一萬八千五百人該市街ハ本洲ノ水瀕ニ沿ヒ數座ノ低キ險山ノ麓ニ沿フテ約二里ノ間ニ櫛比セリ其最モ顯著ナル家屋ハ舊電信局及稅關ニシテ高薨ノ白色ナルニ由テ視認シ易シ又市街東方ノ岸上即チ石造欄干ノ端ニ一小燈ヲ點セリ

供給品

米、鹽、牛肉、野菜其他普通ノ需用品ニ於テハ大抵辨ジ難キモノナシ殊ニ裙帶菜ワカメハ佳品ニシテ多量ヲ產出ス

水ハ非常ノ良質ニシテ多量ノ飲料ヲ得ベシ

錨地

若シ赤間關市街ノ附近ニ錨泊セント欲スレバ宜シク舊稅關ノ附近ニ於テ水深六尋以上十尋以下能ク潮流ヲ避クルノ處ヲ撰取スベシ蓋シ西流ノ間ハ潮勢濱ニ沿ヒ強渦ヲ起シテ狹門ヲ疾流スルカ故ニ其勢力錨鏈ヲシテ交錯セシメ又ハ走錨ノ患ヲ生スルヲアリ又大和船ノ如キハ屢々此海峽中ニ漂流シ船ノ進退意ノ如クナラス遂ニ汽船ト衝突スルノ大危難ヲ起スヲアリ

潮

門司埕附近ニ於テハ漲潮流即チ西流ハ高潮期ノ二時半前ニ起リ東流ハ高潮期ノ二時半後ニ起ル故ニ西流ハ五時間連流シ東流ハ七時間連流ス而シテ大潮ニ在テハ憩潮ヲ見ルヲナシ又潮流ノ速力ハ大潮ニ在テハ一時間七里乃至八

里ヲ走リ小潮ニ在テハ同シク三里乃至四里ヲ走ル但シ其潮流ノ全勢力ヲ有
スルコトハ漲落各潮中三時間ナリ而シテ大潮中ニ於テハ本峽ノ東部ニ激烈ナ
ル狂浪アリ

赤間關市街海岸ノ約中央ニ於テハ朔望高潮九時二十二分大潮升八^三/_四呎小潮
升六呎小潮差二呎半ナリ

本峽小瀬戸ノ口外即チ竹子島ノ南東ニ方ル南風泊^{ハイドマリ}ニ於テハ朔望高潮十時四
分大潮升五^三/_四呎小潮升二^一/_四呎小潮差一呎ナリ

彦嶋

此島ハ長門陸土ノ南西端ニ連ナリ長門海峽ノ西口ニ蟠踞スル所ノ一島ナリ
北東南西ニ狭ク北西南東ニ長ク其形甚不齊ヲ極ム即チ其東西ノ幅八鏈ヨリ
一里九鏈ニ至リ南北ノ幅二里五鏈半ヨリ僅ニ一鏈半ニ至ル○島ノ北角ニ蒼
蔚タル著明ノ一山アリ高約三百八十呎又其南西五鏈ニ圓錐形ノ童山アリ老
山ト曰フ高^サ三百五十一呎○島ノ北西部ハ狹長ナル半島ヲナシ其高^サ最高部ニ

テ僅ニ八十呎ナリ而シテ其最西ノ角端ヲ獅子ヶ口ト曰フ多岩ノ低山角ニシテ
高^サ五十八呎此角ヨリ海岸南面ニ趨ルコト九鏈ニシテ舞子島ニ至ル其間ハ岸勢
出入シテ小灣多ク石崖黃赤色ヲ呈シテ海ニ面ス○島ノ南部ハ山峯ノ突起多
クシテ其地勢稍險シク西端ニ樹木蒼蔚トシテ峻壁削ルカ如キ一高峯アリ高^サ
三百六十七呎大山ト曰フ此山南面ノ麓端ヲ大山鼻ト稱ス即チ本島ノ南西角
ニ當ル○島ノ北東面ニハ大低潮ニ高^サ三呎ヲ干出スル廣沙洲ノ岸ヨリ出ルモ
ノアリ其長^サ潤^サ俱ニ約八鏈其東端ニアル所ノハ子石ト稱スル露岩(高^サ二呎)ハ則
チ其最東端ヲ示スノ好目標タリ

竹子島

潤^サ僅ニ數間ノ端艇水道ヲ隔テ、獅子ヶ口ノ直北ニアル所ノ一小島ナリ該島ノ
西面ハ船舶ノ航路ナルモ危岩險灘散布シテ低潮界ヨリ^一/_四里ノ處マデ擴延セ
ルカ故ニ相距ル四鏈以內ニ近ツキ航ス可カラス

平瀬

竹ノ子島ノ西角ヲ距ル西南西一^一/_三鏈又獅子ヶ口ヲ距ル北西二鏈半ノ地ニアル一孤灘ナリ長^サ約二十間濶^サ約七間半ニシテ灘上ノ水深ハ纔ニ七呎ニ過ギス而シテ其四周ノ水深ハ五尋乃至七尋

警戒

竹ノ子島西角ノ北方ニ離岩アリア瀬ト曰フ該角ヨリ北西二^一/_四鏈ニ擴延ス故ニ該角及獅子ヶ口ヲ過グル船舶ハ該島岸ヲ距ル三鏈以内ニ近ツク可カラス

福浦

彦島西岸ノ南部ニ一小港アリ福浦ト曰フ港口濶^サ約二鏈彎入北東ニ向ヒ約七鏈ナリ港内水淺ク即チ低潮ニ在テハ其水深港心ニ於テ一尋半港口ニ於ケルモ尙^ホ二尋ヨリ深カラズ僅ニ平底ノ和船ヲ入ル、ニ足ルノミ

小瀬戸一名小門

彦島ノ北端ヲ繞リ該島ト本洲陸岸トノ間ニアル所ノ小海峡ナリ此瀬戸タル西端ニ於テハ峽ノ濶^サ僅ニ半鏈ニシテ水深三尋以上ヲ有スレ^レ東口即チ赤間

關市街ノ附近ニ於テハ其水深纔ニ七呎ナルカ故ニ唯小船ノ通路ニ適スルノ

巖流島一名舟島

彦島ノ東岸ヲ距ル^一/_四里ニアル一小島ニシテ島頂ニ松樹茂生シ其北頭ノ高^サ六十二呎東岸ハ赤色ノ石崖ナリ南角ハ陡界ニシテ相距ル一鏈ノ地ヲ航行シ得ベク此島ノ南端ト彦島ノ東角トヲ連結セル線ノ以内及全南端ト赤間關稅關ノ角トヲ連接セル線ノ以西ハ海水甚淺シ

與次兵衛岩一名篠瀬

彦島山底ノ鼻ノ東北東四鏈半ニアル出沒岩ニシテ大低潮ニ干出スル^レ四呎岩上ニ冠燈立標ヲ設ケテ之ヲ示明ス其各側ハ孰レモ航過スルヲ得ヘシト雖モ西側ノ方ハ東側ヨリモ水道廣キヲ以テ宜シク航路ヲ其西側ニ取り成ルヘク彦島ニ接近シテ航過スヘシ

與次兵衛冠燈立標

此立標ハ石造圓形ニシテ紅色ニ塗ル標頭ニ不動紅色燈ヲ顯シ北十六度十八分西ヨリ南七十三度四十二分西マデ二百七十度間ヲ照輝ス燈火ノ高ハ大高潮面上十九呎ニシテ其光達三里而シテ照光器ハ一度點火スルキハ數日保持シ得ベキ構造ナルヲ以テ別ニ看守ヲ置カス故ニ万一消滅スルキハ再ヒ點火スル迄多少ノ時間ヲ費ス^トアルベシ

鳴瀨

彦島山底ノ鼻ノ南西二鏈半該島ノ岸ヲ距ル^ト一鏈半ニアル一岩礁ニシテ半落潮前ニ露ハレ甚危険ノモノトス其干出ノ高^サ二呎礁上ニ冠燈立標ヲ設ケテ之ヲ示明ス其外側ヲ航通スルニハ宜シク赤間關市街ノ上ニ見ユヘキ日野山ヲ山底ノ鼻ヨリ開視シテ進行スヘシ

鳴瀨冠燈立標

此立標ハ石造圓形ニシテ白色ニ塗ル標頭ニ不動白色燈ヲ顯シ南四十三度五十分西ヨリ南八十五度四十分東マデ二百三十度三十分間ヲ照輝ス燈火ノ高^サ

ハ大高潮面上十七呎晴天光達三里而シテ照光器ハ一度點火スルキハ數日保持シ得ベキ構造ナルヲ以テ別ニ看守ヲ置カス故ニ万一消滅スルキハ再ヒ點火スル迄多少ノ時間ヲ費ス^トアルベシ

俎岩

彦島大山ノ鼻南約二鏈ニアル列岩ニシテ低潮ニ於テ纔ニ干出スルモノナリ其最モ大ナル岩頭ニ冠燈立標ヲ設ケテ之ヲ示明ス

俎冠燈立標

此立標ハ石造圓形ニシテ黑白横線ニ塗ル標頭ニ不動白色燈ヲ顯シ北八十六度四十五分西ヨリ南三度十五分東マテ二百七十度間ヲ照輝ス燈火ノ高^サハ大高潮面上十九呎晴天光達三里而シテ照光器ハ一度點火スルキハ數日保持シ得ベキ構造ナルヲ以テ別ニ看守ヲ置カス故ニ万一消滅スルキハ再ヒ點火スル迄多少ノ時間ヲ費ス^トアルベシ

彦島ノ西極端ナル獅子ヶ口ト鐘ヶ崎島ノ東端トヲ一線ニ望ム北北西^ノ西ノ方位

線ハ則チ此組立標ノ西方一鏈半ヲ通過シ大礮根、塵寄兩堆間ヲ航過スルノ好
示導線ナリ

小倉市邑

彦島南西面ノ對岸中海ニ注ク所ノ蒲生川ノ河口ニ跨リ鱗比セル大邑ニシテ
人口七千四百ニ餘ル所ノ一繁都ナリ即チ豐前沿海ノ驛路ニ當リ小笠原氏ノ
古城地ニシテ現今企救郡郡役所ノ所在地ナリ

小倉石陂

沙及岩ヨリ成レル平灘ニシテ灘上數所ニ又小淺灘ヲ有シ彦島ノ南西對岸ナ
ル豐筑二州ノ低濱ノ前ニ廣カルモノナリ該平灘ハ濱岸ヨリ延伸スル一里
乃至二里水深漸次沖ニ増シ其外界ニ至リ三尋トナリテ陡界ヲナス

大礮根瀨

彦島大山ノ鼻ノ北西ノ西^一/_二西七鏈ノ處ヲ其南東端トシ夫ヨリ約北西ノ西ニ向
ヒ八鏈ノ間ニ隱伏スル所ノ沙性ノ岩堆ニシテ其長^サ八鏈幅三鏈半水深二尋乃

至三尋ノ一淺灘ナリ蓋シ長門海峽ノ西口ニ於テハ宜シク航者ノ第一ニ注意
スヘキモノトス

大礮根浮標

大礮根瀨南東端ノ北約二鏈ノ處ニ浮置セル紅色鐵造圓錐形ノ浮標ニシテ籠
球ヲ戴キ其高^サ十二呎半、組冠燈立標ヨリ北西^一/_四北約九鏈ニ當リ水深八尋ノ處
ニアリ

塵寄洲

大礮根瀨ノ北東約三鏈ニアル淺堆ニシテ堆上低潮ノ水深三尋半乃至五尋ア
リ其形チ北西ノ北ヨリ南東ノ南ニ長クシテ其長^サ七鏈半幅ハ最モ廣キ處ニテ
二鏈ニ滿タス而シテ此堆ト彦島ノ濱岸ニ廣布セル淺堆トノ間ハ幅約三鏈ノ
水道ヲ成セリ

錨地

彦島ノ濱岸ヨリ三鏈ノ處即チ前項ニ云フ水道ノ北方濱邊ニ於テ水深六尋ノ

地ハ潮待等ノ爲メニ假泊スル一時ノ錨地トスルヲ得ヘシ

西口

日本内海ノ西口門ハ長門北西端ノ角島ヨリ二十五里間南ニ走ル所ノ本洲ノ西面岸ト又筑前ノ大島ヨリ同距離間東方ニ走ル所ノ九州ノ北面岸トニ由テ成ル其外端ノ横徑三十五里夫ヨリ該兩岸漸次内部ニ相近ツキテ其相距約三里ニ至ル所ノ本洲ノ隅角ニ一大島アリ是則前記ノ彦島ニシテ此島ノ南面ト豊前ノ海岸ト相對スルノ間ヲ長門海峽ニ入ルノ西口トス

名古屋埼

筑前北岸最東ノ一低沙角ニシテ即チ豊前ノ小倉ヨリ遠ク北西ニ走出シタル長濱ノ至端ニ當リ彦島獅子ヶ口ノ南西三里ニアルモノナリ該角兩側ノ沙濱ニハ蒼蔚タル老松ノ一帯林アリ其青色ハ白沙ト相映シテ頗ル好景ヲ呈シ内部耕地ノ屏牆ヲナセリ角ノ沿邊ハ水甚淺クシテ北面ニ淺水ノ岩石多ク北東面ニテ距角一里餘北西面ニテ距角二里餘ニ至ラサレハ水深三尋ノ處ナシ又此

角北東ノ至端ヲ距ル北北東約二鏈ニ一ノ小露岩アリ其高^サ高潮ノ水面ニ於テ二呎ナリ

若松内灣

名古屋埼ノ南西九鏈ノ處ヨリ南西ノ向キ約一里間ニ小海峽ヲ形テ造リ是ヲ灣口トシテ西方ニ深入セル所ノ淺水ノ内灣ナリ東西約三里半南北七鏈乃至一里二鏈灣口(即チ小海峽ノ内口)ニ一小島アリ松ノ島ト曰ヒ灣奥ノ北岸ニ二小嶼アリ二子島ト曰フ又灣心ノ偏東部ニ各相距レタル三座ノ石叢アリ此灣ハ低潮ニハ幾ト乾出シ一二條ノ小艇水路ヲ存スルノミ灣ノ奥ニ三河道アリ其中位最モ大ニシテ吉田川ト曰ヒ北ナルモノ之ニ次キ加茂田川ト曰フ加茂田川ハ外岸ノ舟泊地蘆屋ニ至ル迄舟楫ヲ通ス

帆柱山

名古屋埼ノ約南南西四里三鏈ニ當リ巍然雲表ニ聳ユル所ノ一大尖峯ニシテ北西面ヨリ望ムキニハ雙峯ヲ顯スモノナリ其高^サ北東峯ヲ二千三十一呎トシ

南西峯ヲ二千二十九呎トス此近隣ニ於テハ頗ル顯著ノ山岳ニシテ十餘里ノ外ヨリ認識スルヲ得ベシ

若松

若松内灣外口ノ兩角俱ニ村落アリ其東角ニアルモノヲ戸畑トシ西角ニアルモノヲ若松トス若松ハ小倉ヨリ博多ニ通スル街道ノ一大驛ニシテ其戸數約二百ニ及フノ繁邑ナリ又此地ハ該内灣ノ沿海地ヨリ産出スル石炭ノ販賣地ナルカ故ニ管ニ其市街ノ賑フノミナラス内灣ニハ石炭運搬ノ帆舟織ルカ如ク往來シ岸前ニハ又石炭ノ購買船輻湊シ頗ル繁盛ノ光景ヲ呈セリ

アン瀨

名古屋埼ノ北西一里六鏈ヨリ全二里ノ間ニ廣ガリ露岩洗岩隱岩ヲ以テナル所ノ一座ノ險灘ニシテ是ヨリ其最近ノ陸岸ハ南西ニ當リ距離約九鏈ナリ而シテ周邊ニハ北西北東及南東面ニ於テ一尋以下半尋ニ至ルノ暗岩數個アリ

丸瀨

名古屋埼ノ北西ノ西^{1/2}西二里半ノ處ニ於テ南北四鏈ニ廣ガリ暗岩及出沒岩ヲ以テ形ヲ造ル所ノ一險處ナリ是ヨリ最近ノ陸岸ハ南ニ當リ距離約五鏈半トス

沖ノソ子

名古屋埼ノ北西ノ西四里二鏈ニアル一ノ小暗岩ニシテ其礁上水深一^{3/4}尋是ヨリ最近ノ陸岸ハ南南西ニ當リ距離約一里二鏈ナリ

イサキ岩

名古屋埼ノ北西ノ西五里三鏈ニアル暗礁ニシテ南北二鏈餘ニ廣ガリ其礁上水深一^{3/4}尋ヨリ三尋ニ至ル而シテ是ヨリ最近ノ陸岸ハ南ノ西^{1/2}西ニ當リ距離約一里ナリ

妙見埼

九州北西岸最北ノ一曲折點即チ筑前陸土ノ北西端ニ當リ名古屋埼ノ西ノ北^{1/2}北七里四鏈ニアル所ノ低卑ノ岩角ナリ而シテ低潮ニハ角周ニ石破ヲ露ハ

セヒ距角僅ニ一鏈ニシテ四尋半ノ水深アリ
 此崎ノ南東ノ東^ニ東四里九鏈即チ若松内灣ノ北岸ノ背面ニ當テ一ノ林山アリ其高^サ千十二呎林頭ニ凹ミヲ形チ造リ其觀最モ海面ニ顯著ナリ此崎ト名古屋崎ノ間ノ一帶沿岸ハ大率遠淺ニシテ且前記ノアン瀨、丸瀨、沖^ノソチ、イサキ瀨ノ四險距岸五鏈乃至一里二鏈ノ距離ヲ以テ縁附セルカ故概シテ距岸一里半以内ニ近ツク可ラス
 又此崎ヨリ東方ノ九州沿岸ハ概チ低卑ノ陸ニ屬スレヒ背陸ノ山脈ハ約二千呎乃至四千呎ノ高^サアリ而シテ此岸ト共ニ日本内海ノ西口ヲ形チ造レル本洲ノ沿岸ハ之ニ比シテ其陸ハ較^ク高キモ瀨海一帶ノ山脈ハ頗ル低シ即チ其高^サ約千呎乃至二千呎ナリ

白島^{シラ}

此島ハ二島ヨリ成リ其相離隔スル^{コト}六鏈筑前大島ノ外角ヲ距ル^{コト}東ノ北^ニ北十六里妙見崎ヲ距ル^{コト}北北東約五里ニアリ其二島中北東ニアルヲ男島ト

曰ヒ其南西ニアルヲ女島ト曰フ男島ハ北ノ西至南ノ東ノ長^サ六鏈餘濶^サ約二鏈半樹木翳鬱トシテ島嶺南部ニ高ク其高^サ四百四十二呎トス而シテ北角ハ削ルカ如キ斷崖ニシテ其高^サ三百八十呎南角ハ沙嘴ヲ以テ成リ該角ヨリ岩淺堆南方四鏈ニ伏伸セリ女島ハ西北西至東南東ノ長^サ半里濶^サ半鏈乃至一鏈半ニシテ島岸縈曲出入シ東部ニ一ノ尖峯ヲ形チ造レリ其高^サ二百九十呎西角ハ斷崖ニシテ水中モ亦陡界ナリ

ハンドウ岩及柱岩

男島北角ノ東面ニアルニ岩嶼ニシテハンドウ岩ハ男島北角東端ノ北一鏈半ニアリ其高^サ百二十六呎平頂ノ圓臺ノ如ク柱岩ハ全端ヲ距ル北東半鏈足ラスニアリ其高^サ八十五呎矗立筍ノ如シ

女島礁脈

女島ノ東角ヨリ南ノ東ニ向テ斷續伏伸スル所ノ礁脈ニシテ其長^サ一里半最淺ノ水深二尋ニシテ岩灘ノ南尾ノ水深ヲ二^三/_四尋トス此處ヨリ白洲燈臺ハ東ニ

當り藍ノ島ノ南端ト正ニ一直線ヲ成ス

ソ子

前項礁脈南端ノ一部ニシテ其部分ハ南北二鏈半ニ延ヒ水深三尋以下二尋半ニ至リ常ニ激烈ナル破浪アリ

コシキ礁

女島西角南イ西約四鏈ニアル一暗礁ニシテ東北東ヨリ西南西ニ延ヒ其一鏈餘ハ最淺水深一尋半ナリ

藍ノ島

彦島獅子ヶ口ノ北西三里半ニ在リ高僅ニ八十四呎ノ平低島ニシテ林樹之ヲ蔽ヒ北々西至南々東ノ長一里而シテ其幅二鏈半ナリ其北角ノ附近ニ二小嶼アリ高一ハ三十一呎一ハ三十呎トス低潮ニハ岩陂ヲ以テ是ト本島ト殆ト連絡ス此二嶼ノ西方ニ在ルモノヲ貝ノ島ト曰ヒ之ヲ距ル北方三鏈ノ處ニ又低礁脈アリ廣瀨ト稱シ高潮ニ隠ル而シテ此又東方二鏈ノ處ニ殆ト南北ニ列セル

兩岩アリ北ヲ大モジ南ヲ小モジト呼ヒ其高各五呎常ニ露出ス

藍ノ島浮標

前項ノ廣瀨ヨリ北方四鏈半ニ伸出セル所ノ淺堆アリ是ヲ沖ノグリト曰フ此浮標ハ該淺堆ノ北側低潮水深六尋ノ處ニ浮置セルモノニテ頭ニ籠ヲ戴キ水面上ニ出ツルヲ十五呎半ノ紅色圓錐形浮標ナリ而シテ此浮標ヨリ六連島ノ北端ハ南東^一/_四東三里七鏈ニ當リ男島ノ北端ハ西^一/_二北約四里ニ當ル船隻宜シク該浮標ノ北方ヲ航過ス可シ

藍ノ島ノ南角ニ一草山アリ其高十呎是ヨリ岩陂南南東一鏈半ニ伸出ス而シテ其向ニ尙約四鏈及其南西面約五鏈ノ間ハ海水淺シ

白洲

藍ノ島ノ西南西面一^一/_四里ノ處ニアル一大離礁ニシテ其廣大約南北五鏈東西四鏈其中心ニ礫沙合質ノ小露堆ヲ形テ造ルモノナリ該露堆ハ長三百八十呎濶七十五呎高潮面上ニ出ツルヲ數呎ニシテ其上ニ燈臺并ニ旗竿東側ニ木造ノ

小馬頭アリ

白洲燈臺

白洲ノ露堆上ニ設置ス四角木造ニシテ其着色ハ黑白横線第五等不動紅色ヲ顯ス射光ハ四面全周ヲ照シ燈高ハ基礎上四十二呎海面上四十四呎晴夜ハ十里外ヨリ望見シ得ヘシ

甌岩

藍島ノ南角ヨリ東北東七鏈ノ處ニアリ高潮面上高十二呎ノ方形小岩ナリ岩傍ニ石陂アリ南方ニ向テ海ニ伏入スル一鏈又該岩ノ北西二鏈ノ處ト三鏈ノ處トニ低潮洗岩アリ而シテ其東側ハ更ニ隱險ナク其水際ヲ距ル一鏈強ノ處ニ於テハ水深五尋三鏈半ノ處ニ於テハ十尋ナリ然レモ其西側ハ險惡ナルヲ以テ此岩ト藍島トノ間ヲ通過スルハ甚危険ナリ

白洲西面及南面ノ水深

白洲ト藍島トノ間ハ低潮ノ時ニ於テ水深三尋半ヨリ六尋アレモ海底ノ變化

甚シクシテ危険ノ水道ニ屬スレバ吃水十二呎以上ノ船舶ハ必ス此水道ヲ通過スルコト勿レ

六連島

彦島獅子口ノ北北西一里五鏈ニ在リ其周回一里九鏈南北ニ稍長シ島巔臺地ヲナシ其上ニ顯著ナル二團ノ叢林アリ其林頭ノ高ハ海面上三百九十八呎一ハ二百五十六呎トス島周南西面ノ他ハ水頗ル深ク距岸一鏈ニテ七尋九尋乃至十三尋船隻已ニ筑前大島ヲ繞航スルノ後ハ則チ此島ヲ約束北ノ方位ニ遙見シ得ベシ

六連島燈臺

六連島東岸ノ北角ニ設置ス其構造ハ圓形御影石造ニシテ第四等不動白色ヲ顯シ光射圈ハ南東^三/_四南ヨリ南及西ヲ繞リテ北^一/_二東ニ至ル又燈高ハ基礎上二十五呎海面上八十九呎ニシテ晴夜ニハ十五里外ヨリ望見シ得ベシ該燈光射ノ區ニ入り始メテ之ヲ南東^三/_四南ニ望ミタル時其方向ニ依テ進メハ

則チ藍島ノ北ニ在ル沖、グリヲ七鏈離レテ過クルヲ得ヘシ

小六連

馬島、鐘崎島、和合良島、片島及較小ナル數嶼數岩ヨリ成ルモノニテ即チ六連島ノ南西面ニ座シ淺堆ニ由テ六連島ト連續スルモノナリ而シテ此諸嶼ノ高ハ大抵相均シク七十呎ヨリ八十呎ノ間ニアリ

黒埼

六連島燈臺ノ東北東二里三鏈半ニアル一角ニシテ角面陡岸西傍ニ最モ險シク角巔平ヲカニシテ其高二百二十五呎其餘脈南東ニ走リテ數個ノ小巒ヲナセリ角際ノ水深ハ西面ニハ稍深キモ北面ハ其北方ノ沙濱ニ連ナルヲ以テ其水自カラ淺シ又南面ニハ洗岩暗岩ノ散布甚多キカ故ニ其水モ亦淺シ角ノ南西端ヲ距ル南イ西約二鏈ニ潮ノ漲落ニ由テ出沒スル一岩アリ之ヲ廣瀨ト曰フ又全端ヲ南西ニ三¹/₃鏈離レテ低潮水深二尋乃至三尋ノ一礁脈アリ即チ北東¹/₂北ヨリ南西¹/₂南ニ向ヒ三鏈餘ニ伸伏ス其沖合ニ離隔セルヲ以テノ故カ

沖ノ瀨ト曰フ

村崎鼻

黒埼ノ北¹/₂西一里半ニアリテ平低ナル陸土ノ南西ニ向テ斗出シタル一地角ナリ南傍ニ灣ヲ形ヲ造リ其灣岸ノ村落ヲ安岡ト曰フ前濱ニ小形ノ防波堤アリ小舟ノ繫泊ニ便ス角際ノ水深ハ南西面ニ深ク三尋界ハ距角一鏈半ニアリト雖モ北西面ハ甚遠淺ニシテ其三尋界ハ距角一里三鏈半ニ出テ其界内ニ於テ鼻ヲ距ル北北西三鏈ニ中藻ト稱シ低潮水深半尋乃至³/₄尋ノ石淺堆アリ又鼻ノ南東四鏈即チ安岡村落ノ前面ニ低潮水深半尋ノ一暗岩アリ之ヲツブ瀨ト曰フ

クルミ瀨

村崎鼻ノ北西面ニ遠出シタル淺堆ノ界内ニアル卵石堆ニテ即チ全鼻角ヲ距ル北北西¹/₂西一里一鏈ニアリ其高潮面上露出ノ高一呎堆徑東西約一鏈ニシテ弦月形ヲナセリ乃チ距岸ノ遠キモノ故航者ノ宜シク注意スベキ一險處ト

ス
錨地

凡ソ長門海峽ノ西口外ニ來リ六連島ノ近傍ニ於テ夜ニ會シ其明ヲ待ツカ爲
ニ一時泊地ヲ求ムル等ノ場合ニハ則チ六連島東面ノ對岸ニ偏倚シ黑埼ノ南
西面ニ於テ水深七尋乃至九尋ノ處ヲ可トス然レモ該陸岸ニハ之ニ縁附スル
ノ礁石少ナカラサルヲ以テ其場合ニハ宜シク距岸半里以外ニ投錨スヘシ若
シ時尙ホ夜ニ入ルニ間アツテ六連島ヲ繞航スルヲ得ヘキ見込アルキニハ開放
シタル外側ニ泊シテ夜ヲ徹センヨリ寧ロ該島ヲ繞リ小六連ノ南方ニ迄航シ
來リ水深六尋ノ地ニ投錨スルヲ可トス

長門海峽針路法

東方ヨリ北水道ニ由テ門司埼ニ至ル針路法

夫レ長門海峽ノ東口ニ於テ其最モ東ニアル陸標ノ著シキ者ハ則チ北側ニ於
テ滿珠島南側ニ於テ部埼燈臺ナルヲ以テ東方ヨリ該峽口ニ進航スルニハ宜

シク先ツ此二物体ヲ識認スルニ注意スヘシ對景第一號ヲ見ヨ

凡ソ晝間ニ於テ部埼燈臺ヲ北西^三/_四西ニ望ミ又夜間ニ於テ該燈ノ白光ヲ望ミ
此峽口ニ進航スル船隻已ニ滿珠島ノ中心ヲ北^一/_二西^一/_二西ニ望ミ得タラハ則チ
宜シク其方向ニ船首ヲ轉シテ該島ニ向ヒ進行スヘシ斯クシテ進ムトキハ則
チ低潮ノ時ナルモ水深六尋ヨリ淺カラサル區ヲ駛セテ中洲東邊ヲ航過スル
ヲ得ヘシ

上ノ如ク進ミテ干珠島ヲ西北西ニ視ル迄航シ來ルキハ又日野山ヲ西^三/_四南ニ
望ムヘキニ由リ乃チ針路ヲ日野山ニ轉シテ向進スヘシ此日野山ハ赤間關市
街ノ東面ナル山脈ノ南端ニシテ直立約九百十五呎其上ニ砲臺アリ乃チ右ノ
方向ニ依リ此山ニ向航スルキハ水深約八九尋ノ區ヲ駛セテ中洲ノ北邊ヲ航
シ過クルヲ得ヘシ斯ク航シテ中洲西浮標ヲ部埼燈臺ト直線ニ南東^一/_二南ニ視
タルキハ則チ針路ヲ南西^一/_二西ニ轉シテ進ムベシ而シテ金伏冠燈立標ノ東^一/_二
南約三鏈半ノ處ニ到ラバ宜シク赤間關市街南角上ニアル永福寺ノ松團ト門

司崎ノ至端對景第二トヲ見ヨト直線ニ視ルニ注意シ斯克シテ該二標ヲ直線ニ望ミ其準標ニ依テ進航スレバ則チ金伏立標ノ直南一三鏈ノ處ニ到ルベシ是ヨリ尙ホ此直線ヲ守ツテ約三里ヲ進メバ既ニ南細瀬ト釜床ノ瀬トノ中間ヲ過キ去リタルヲ以テ是ヨリハダ瀬ニ注意シテ漸次ニ永福寺ノ松團ヲ門司崎ノ右ニ開ラキツ、早鞆、瀬戸ニ進ムベシ蓋シ此北水道ハ深水ヲ連ヌルモ潮流ノ勢力甚強キヲ以テ餘義ナキ場合ニ臨ミ稀ニ通過ヲ試ミルハ可ナリト雖モ殊更ニ好テ之ヲ通過ス可ラス又夜間ニアリテハ斷シテ此水道ニ依ルコ勿レ凡ソ其吃水二十二呎以上ノ船隻ハ日暮或ハ低潮期ニ當テ部埼燈臺ニ達シタルハ宜シク部埼近傍適宜ノ地ニ投錨シテ黎明ヲ待チ或ハ潮ヲ候ヒ中洲南面ノ中央水道ヲ行ニ便宜ナル時期ヲ待ツヘシ

中央水道ニ由テ門司崎ニ至ル針路法

部埼燈臺ヲ距ル大約半里ノ處ヲ經過シ夫ヨリ中洲西浮標ニ向テ北西一西ニ進ム可シ斯克シテ該浮標ヲ距ル大約三鏈ノ處ニ達シ即チ滿珠島ノ中心ヲ北

東三北ニ視ルニ至リタレハ速ニ針路ヲ西一南ニ變シ中洲東浮標ヲ東一北ニ船尾ニ正視シテ進ムヘシ而シテ已ニ門司崎ト永福寺ノ松團トヲ直線ニ視タル後ハ則チ前記ノ針路ニ從ヒ金伏南方ノ險ヲ避ケ門司崎ニ進ム可シ若シ諸浮標ノ其位置ニアラザル時ハ部埼燈臺ノ對面ヨリ先ツ串埼ニ向テ北西一北ニ進ミ而シテ已ニ日野山ヲ西一北ニ視ルニ至ラバ直ニ針路ヲ直西ニ轉シテ進ムヘシ斯克進ムハ金伏冠燈立標ニ近ツキテ終ニ門司崎ト永福寺ノ松團トヲ直線ニ望ミ得ヘキニ由リ之ヲ望ミタルノ後ハ則チ又前記ノ如ク進ム可シ

門司崎ヨリ藍ノ島ノ東面ニ至ル各區ノ針路法

門司崎ハ相距ル一鏈半ヲ度トシテ繞航スヘシ而シテ之ヲ繞航シタレハ先ツ針路ヲ南西ニ取り巖流島ノ左端ニ向フテ進行セヨ乃チ斯克進ンテ一里餘ヲ航スルハ永福寺ノ松團ヲ北西ニ望ミ門司紅色浮標ヲ北東一東ニ見ルノ地ニ達スヘキニ由リ此地ニ達シタレハ則チ此地ヲ折針點トナシ船首ヲ左

タルニシテポイント

轉シテ南西^一南^二ニ針路ヲ定ムヘシ此針路ニ依テ進ムキハ此時赤間關市街ノ上ニ見ユヘキ日野山ヲ正背ヨリ少シク東倚リニ開視スヘキニ由リ之ヲ準標トシテ約二里三鏈間ヲ航セヨ斯クスルキハ水深七尋以上十尋以下ニシテ巖流島ノ南端ヲ距ル二鏈半ノ該南東面及與次兵衛冠燈立標ヲ距ル一^一鏈ノ該西側ヲ航過シ山底鼻ノ正對面ニ於テ鳴瀨冠燈立標ヲ西^一南^二ニ望ミ與次兵衛冠燈立標ヲ北東^一東^二ニ見ルノ地ニ達スヘシ

已ニ右ノ地ニ達セバ船首ヲ右ニ轉シテ南西^一西^二ニ向ケ與次兵衛冠燈立標ヲ正背ニシテ進ムヘシ乃チ此向キニ約六鏈餘ヲ航スレハ彦島ノ南西端ナル大山鼻ト白洲燈臺ヲ直線ニ望ムヘキ地ニ達スヘキニ由リ該標的ヲ望ミ得タレハ夫ヨリハ船首ヲ漸々ニ右轉シナカラ進行シテ祖冠燈立標ノ西方二鏈ノ處ニ出テ獅子^一口^二ト鐘ヶ崎島ノ東端ト^{對景第四}號ヲ見ヨノ一直線ヲ認メ之ヲ準標トシテ其向キニ進ミ大礮根ト塵寄ノ兩堆間ニ進入スヘシ

右ノ如ク進入スルキハ則チ大礮根浮標ノ東面一鏈ノ處ヲ經過スヘキニ由リ

該浮標ヲ經過シテ其距離大約三鏈ニ及ヒタレハ針路ヲ約一點半西ニ轉セヨ然ルキハ船尾ニ大山鼻ト桐ヶ谷山^{戶上山ノ南西六鏈ニア}ル^{圓錐峯高サ一四四呎}トヲ一直線南東^一南^二ニ視ルヘシ^{對景第三}號ヲ見ヨ乃チ此準標ヲ正背ニシテ進メハ獅子^一口^二ノ西方四鏈ノ處ヲ通過シ此時六連島燈臺ヲ北^一東^二ニ見ルヘキニ由リ之ヲ見タルキハ直ニ其方向ニ船首ヲ轉シ該燈臺ニ向テ進行スヘシ即チ竹^一子島^二西面ノ險惡地ヲ十分ニ避クルノ航法ナリ

又竹^一子島^二西面ノ險惡地ハ其西界六連島燈臺ヨリノ直南ニ當ルヲ以テ該島ノ西面ヲ經過スル時ハ必ス該燈臺ヲ北^一東^二ヨリ以北ニ見ルコト勿レ

六連島ハ大約半里ヲ離レテ之ヲ繞航スヘシ而シテ已ニ其北面ニ到ラハ船首ヲ殆ト北西ニ保チ晝間ナレハ該島ノ北角ト彦島ノ老^一山^二トヲ直線夜間ナレハ六連島燈臺ノ光射ヲ纔ニ其限界近ク之ヲ船尾ニ正視シテ進マンコトヲ要ス即チ此示導線ハ能ク船隻ヲシテ六連島ノ北面ヨリ藍^一島^二浮標ヲ距ル北東六鏈半ノ處ニ到ラシムヘシ

六連島西面ノ水道ヲ航過スル針路法

若シ六連島並ニ小六連ノ西面ヲ經過セント欲セハ前記ノ如ク獅子ヶ口ノ西方四鍵ノ處ニ於テ針路ヲ轉スルヲナク尙前ノ針路即チ大山、鼻ト桐ヶ谷山ト對景第三見ヨヲ一直線ニ正背ニ準視シテ藍島ニ向フヘシ然ルキハ小六連ノ最西島ナル片島ノ南西面ニ於テ片島ノ北西端ト六連島ノ北西端トヲ直線ニ北東ノ東ニ視ルヘキニ由リ已ニ之ヲ視タルキハ直ニ針路ヲ北東ニ轉スヘシ乃チ此針路ニ依テ進メハ甌岩ノ東方四鍵ヲ過キ遂ニ六連島ノ北角ト彦島ノ老山トヲ直線ニ見ルノ準標線ニ達スヘキニ由リ之ニ達シタレハ前記ノ如ク針路ヲ北西ニ轉シ該準標ヲ船尾ニ正視シテ進ムヘシ

白洲南面ノ水道ヲ航過スルノ針路法

若シ白洲南面ノ水道ヲ航過セント欲セハ先ツ前記ノ如ク大山、鼻ト桐ヶ谷山ト對景第三見ヨノ一直線ヲ準標トシテ藍島ニ向ヒ小六連ノ西面ニ航行スヘシ而シテ已ニ馬島(小六連中ノ最大ナル者)ノ南角ヲ東南ニ見ルニ至ラハ則チ針路

ヲ轉シテ該角ヲ其方向ニ背視シ西北ニ向テ進ムヘシ此針路ニ依テ進メハ則チ大低潮ト雖モ水深二尋ヨリ淺カラザル堆上ヲ駛セ白洲ハ其燈臺ノ南方九鍵、女島ノ東角ヨリ南ノ東一里四鍵ニ座セル所ノ險灘即ソチハ其南方四鍵ニ各之ヲ經過シ得ヘシ而シテ已ニ男島ノ巔キヲ北ニ視ルニ至ラハ其針路ヲ西南ニ轉シ白洲燈臺ヲ正背ニ望ンテ進メ乃チ此針路ニ依テ十五里ヲ航過スレハ筑前ノ大島ニ達スヘシ但シ此法程ハ吃水約十二呎以下ノ小船ニ適用スヘキノミ

警戒

夫レ長門海峽ハ已ニ上ニ詳述シタル如ク流潮ノ速力甚強大ニシテ其流勢猛激ヲ極ムルノミナラス危岩險堆ノ障礙モ亦頗ル多キ水道ナルヲ以テ能ク此等ノ障礙ヲ防避シ安穩ナル航過ヲ遂ント欲スルニハ則チ第一ニ嚴密ナル慎重ヲ要スルカ故ニ宜シク先ツ之ヲ銘記セサル可ラス由テ其各口ニ達シ若シ不利ナル潮ニ會シタルキハ宜シク適宜ノ地ヲ撰ンテ之ニ投錨シ成ルヘキ丈

ケ潮流ノ靜停スルヲ待ツヘシ必ス該水路ノ熟練ヲ恃ンテ之ヲ強行スル等ノ所爲アルヲ勿レ

錨地

本峽西口ノ外側ニ於テ潮待ノ假泊ニハ塵寄洲ノ東面水深六七尋ニシテ和合良島小六連中最南ニアル者ト獅子ヶ口トヲ直線ニ視ルノ處ニ投錨スルヲ可トス

西方ヨリ長門海峽口ニ向ヒ入ル針路法

若シ西方ヨリ該峽ニ向ヒ入ルニハ宜シク先ツ筑前大島ノ北約一里ノ處ヲ經過シテ針路ヲ東ノ北ニ取り男島ノ北角ニ向テ進ミ該角ヲ相距ル半里ニテ經過シ然ル後針路ヲ東方ニ轉シテ進行スベシ但シ男島ノ北角ヲ直西ヨリ以北ニ見ザルノ注意ヲ要ス已ニ六連島ノ東端ニアル燈臺ヲ南東ニ開視スルカ又夜中ニ於テハ該燈光ヲ認メ以テ能ク藍島北角附近ノ礁脈ヲ避クルニ至ラバ則チ南東ノ針路ヲ以テ六連島ニ近邇スベシ

斯クシテ該島ニ近邇シタルキハ相距ル三鏈ヲ度トシテ之ヲ繞リ而シテ其東面ニ到リタレハ針路ヲ南ノ西ニ轉シテ彦島ノ西角獅子ヶ口ヲ經過スベシ又夜中ニ於テハ能ク該燈光ヲ視界内ニ保視シ宜シク之ヲ視失ハザルニ注意スベシ

西方ヨリ白洲南面ノ水道ヲ通過スルノ針路法

筑前大島ヲ相距ル約一里ニテ繞過シタルキハ先ツ東ノ北ノ針路ヲ以テ進行スヘシ即チ此方向ニ依テ進メバ該海岸ト女島ノ間ノ正中水道ヲ駛セテ白洲燈臺ニ向フカ故ニ既ニ該燈臺ヲ視認セバ之ヲ東ノ北ニ保視シ以テ女島ノ東端ノ南ノ東一里半ニ擴延スル所ノ險惡地ナル彼ノソチヲ避ク可シ已ニ男島ノ頂ヲ北ニ望ミタレバ馬島ノ南端ニ向テ針路ヲ轉シ東ノ南ニ進メ此針路ニテ進ムキハ白洲燈臺ノ南方九鏈ヲ過キ大低潮ニテ水深十六呎ヨリ淺カラサル堆上ノ區ヲ駛テ小六連ノ西面ニ達シ得ベキニ由リ小六連ノ最西島ナル片島ノ北西端ト六連島ノ北西端トヲ直線ニ其方位北東ノ東ニ視ルニ至ラバ此

時針路ヲ南東ニ轉シテ彼ノ大山、鼻ト桐ヶ谷山ト對景第三ノ一直線ヲ取り(船首
方向南東^{一三}南)以テ長門海峽口ニ向フ可シ而シテ已ニ大礮根浮標ヲ經過シタ
ルキハ則チ左ノ針路法ニ從テ進ム可シ

西方ヨリ長門海峽ヲ通過スル針路法

凡ソ藍島浮標ヲ經過セシ後晝間ニ於テ六連島ノ北端ト彦島ノ老山トヲ直線
(南東^{一三}南)ニ視タル時及夜間ニ於テ六連島ノ燈標ヲ南東^三南ニ望ミタル時ハ
則チ先ツ針路ヲ南東ニ定メ六連島ニ向進スルヲ通常ノ針路トス故ニ六連島
ニ近寄リタルキハ該島ヲ相距ル約半里ニテ繞リ其東面ニ出テ而シテ六連島
ノ燈臺ヲ北^一東ト北^一東トノ間ニ保視シテ此外ニ出デサルノ注意ヲ取
リツ、竹、子島ト小六連トノ間ニ駛セ入り彼ノ大山、鼻ト桐ヶ谷山ト對景第三
ヲ一直線ニ視ルニ注意スベキヲ務ムベシ既ニ此直線ノ地ニ達シテ其方向
(南東^{一三}南)ニ進ムキハ獅子ヶ口ノ西面ヲ四鏈ノ距離ニテ經過シ大礮根浮標ノ對
面ニ到リ獅子ヶ口ト鐘ヶ崎島ノ東端ト對景第四ヲ一直線ニ視ルノ位置ニ達スヘ

シ依テ此直線ヲ船尾ニ正視シ即チ南南東^{一四}東ニ向フテ進メ然ルキハ粗冠燈
立標ノ西方約二鏈ヲ經過スヘキニ由リ之ヲ經過シタルキハ尙ホ少シク進テ笠
頭山巖流島南東面ノ對岸ニアリテ北西至南東ノ向キニ三連頭ヲト山底、鼻ト
ノ直線ヲ視ルニ注意シ之ヲ認メテ東ノ南ニ轉進シ而シテ山底、鼻ト門司崎ト
ノ開現(其方位約北東^一北)スルヲ待テ與次兵衛冠燈立標ニ針路(其方位北東^{一四}
東)ヲ向クヘシ即チ斯ノ如ク航進スルキハ鳴瀨冠燈立標ノ南面ヲ適宜ノ距離
ニテ經過シ山底、鼻ノ對面ニ達スヘシ而シテ此對面ニ達シタルキハ日野山ニ
向ヒ針路ヲ北々東^三東ニ取ツテ進メ即チ赤間關市街ノ前面ニ到ルヘキニ由
リ已ニ門司崎ト串崎ト對景第五ヲ開現スルヤ否ヤ之ヲ度トシテ早鞆、瀨戸ノ
正中ニ向進スヘシ

警戒

凡ソ吃水二十二呎以上ノ船隻已ニ門司崎ニ達シテ低潮ニ會スルカ又西流ノ
盛時ニ會シタルキハ宜シク門司浦ニ投錨シテ潮ヲ候ヒ中央水道ヲ經テ東行

ニ便宜ナル時ヲ待ツヘシ
 又中央水道ハ低潮ニ於テハ其水深纔ニ四尋ヨリ四尋半ナルカ故ニ若シ東口
 ヲ強テ直行セントスル場合ニハ必ス此水道ニ依ルヲ勿レ蓋シ此場合ニ於テ
 ハ北水道ニ依テ通過スルヲ可トス
 然レモ又吃水二十二呎以下ノ船隻ナレハ潮時ノ如何ニ論ナク中央水道ヲ通
 過シテ可ナリ但シ緊急切迫ノ場合ニアラザレハ潮流ノ盛時ニ臨ミ決シテ之
 ヲ強行スルヲ勿レ即チ早鞆瀬戸ニ於テハ其潮流ノ速力大潮ニハ一時間五里
 乃至七里ノ強勢ヲ極ムルナリ又該峽ニハ潮ニ乗スル所ノ和船甚多キカ故ニ
 之ヲ避クルノ大注意ヲ要ス

門司崎ヨリ北水道ニ由テ東口ヲ出ル針路法

西方ヨリ來ツテ門司崎ヲ經過シタル所ハ先ツ該崎ト赤間關市街南角上ノ彼
 ノ永福寺ノ松團ト對景第二ヲ見ヨリ一直線ニ方位西ノ南ニ背視シテ東方ニ向
 進スヘシ斯クスル所ハ蠟辻ノ北側ヲ經テ金伏冠燈立標ノ直南一三鏈ノ處ヲ

過去ルベシ而シテ滿珠島ノ中心ヲ北東ノ東一東ニ視ルニ至ラハ直ニ針路ヲ
 該中心ニ轉シテ之ニ向ヒ進ムヘシ已ニ部埼燈臺ト中洲西浮標トヲ一直線ニ
 望ミタラハ針路ヲ東ノ北ニ轉シテ進ムヘシ此針路ハ中洲ノ北側ニ於テ低潮
 水深八尋以下ニ下ラサル處ニ導キ來ルヘキニ由リ已ニ滿珠島ノ中心ヲ北ノ
 西一西ニ視ルニ及バ、即チ南ノ東一東ニ針路ヲ轉シ此針路ノ東方ニ距ル一遠
 カラサル淺處ニ注意シ該島ヲ其反對方位ニ船尾ニ保視シテ進ムヘシ然ル所
 ハ則チ中洲ノ東方水深約六尋ノ處ヲ經過シテ南方ニ航進スヘキニ由リ已ニ
 部埼燈臺ヲ北西三西ニ見ルニ至テ南東ニ針路ヲ轉シ瀬戸内ニ入ルヘシ但シ
 此時夜ニ際セハ彼ノ宇部御崎ノ遠出淺灘ヲ避ンカ爲メ該燈標ノ紅白兩光接
 合ノ處ヲ正背ニ保視スルニ注意スヘシ
 門司崎ヨリ中央水道ニ由テ東口ニ出ル針路法
 中央水道ハ本峽東口ノ一般通路ナルカ故ニ各險處ノ所在ニハ各浮標ヲ設置
 シテ之ヲ明示セリ

金伏冠燈立標ノ對面ニ至ル迄ハ前針路法ノ如ク進ムヘシ既ニ之ニ達シタル
キ中ノ洲東浮標ヲ船首ニ正視スルノ方位ヲ以テ部埼燈臺ヲ南東ニ南ニ視ル迄
進ミ已ニ之ヲ視テ又南東^一東ニ轉進スルキハ則チ部埼ノ對面ニ至ルヘシ故
ニ是ヨリ瀬戸内ニ航入スルニハ宜シク部埼燈臺ヲ北西^三西ニ望ムノ針路ニ
轉シ其方位ニ該燈臺ヲ背視シテ南東^三東ニ向進スヘシ
又夜間ナレハ前針路法ノ如ク該燈標ノ紅白兩光接合ノ處ヲ正背ニ保視スル
ニ注意スヘシ

EF-22

明治三十四年五月十五日出版

定價金拾參錢

